（様式１－１）

① 申請者	◎笠岡市，丸亀市， 土庄町，小豆島町	② タイプ	地域型　/　シリアル型 A　B　C　D　E

③ タイトル

（ふりがな）	しってる!? ゆうきゅうのときがながれるいしのしま ～うみをこえ，にほんのいしずえをきずいた　せとうちびさんしょとう～

知ってる!? 悠久の時が流れる石の島　～海を越え，日本の礎を築いた　せとうち備讃諸島～

④ ストーリーの概要（２００字程度）

瀬戸内備讃諸島の花崗岩と石切り技術は長きにわたり日本の建築文化を支えてきた。日本の近代化を象徴する日本銀行本店本館などの西洋建築，また古くは近世城郭の代表である大坂城の石垣など，日本のランドマークとなる建造物が，ここから切り出された石で築かれている。島々には，400年に渡って巨石を切り，加工し，海を通じて運び，石と共に生きてきた人たちの希有な産業文化が息づいている。世紀を越えて石を切り出した丁場（ちょうば）は独特の壮観な景観を形成し，船を操り巨石を運んだ民は，富と迷路の様な集落を遺した。今なお，石にまつわる信仰や生活文化，芸能が継承されている。

400 年前の巨石を「切る」採石作業風景想像図

明治生命館（1934 年）※備讃諸島の石

大坂城石垣石丁場の残石群

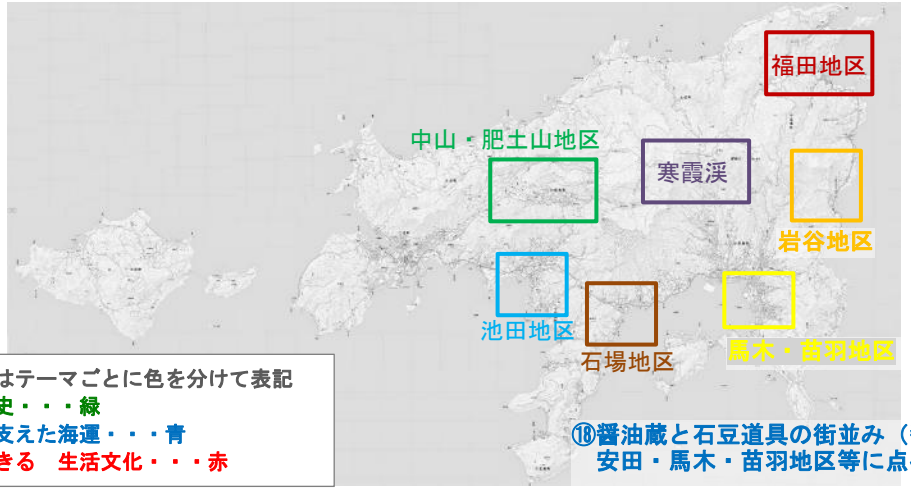
明治生命館の石丁場

海の民の海運力を物語る笠島集落

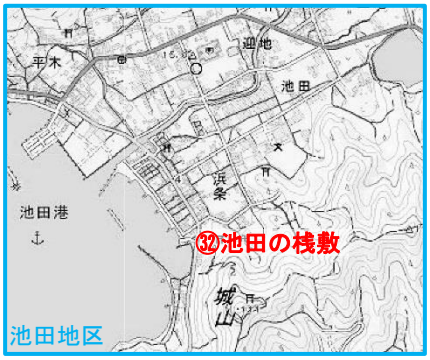
（様式１－２）

構成文化財の位置図（地図等）

小豆島【小豆島町】

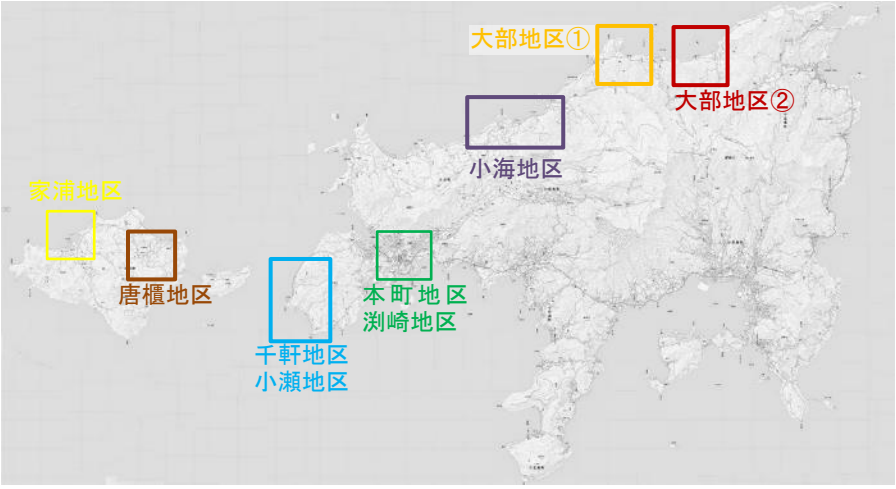


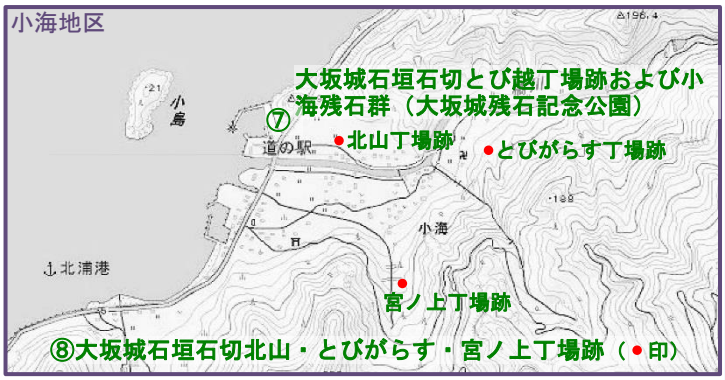
構成文化財はテーマごとに色を分けて表記
石切りの歴史・・・緑
石の産地を支えた海運・・・青
石と共に生きる　生活文化・・・赤



出典：国土地理院ウェブサイト（https://maps.gsi.go.jp/）
地理院地図を加工して作成（以下の地図も同じ）

小豆島・豊島【土庄町】

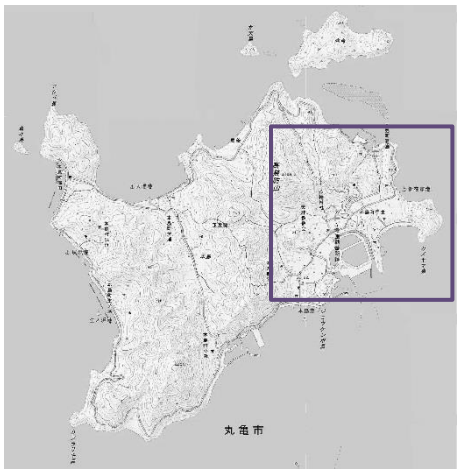


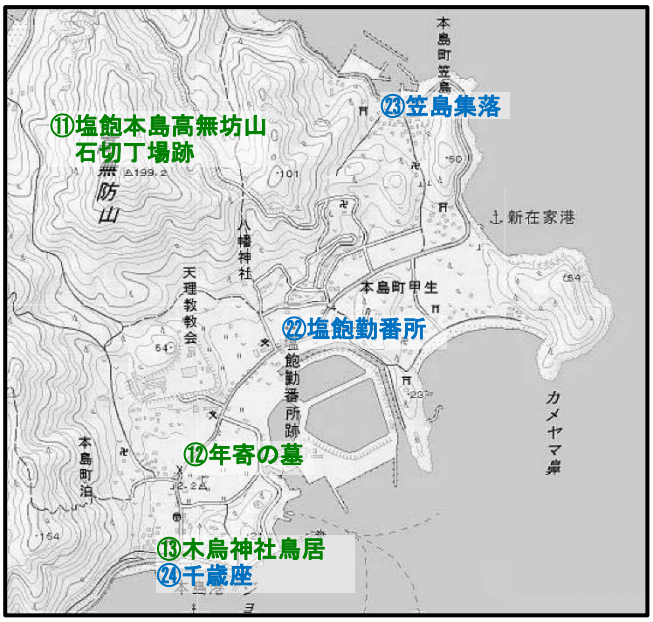


小豆島の全島的な構成文化財
㉝小豆島の山岳霊場　㊳石節　㊴しし垣

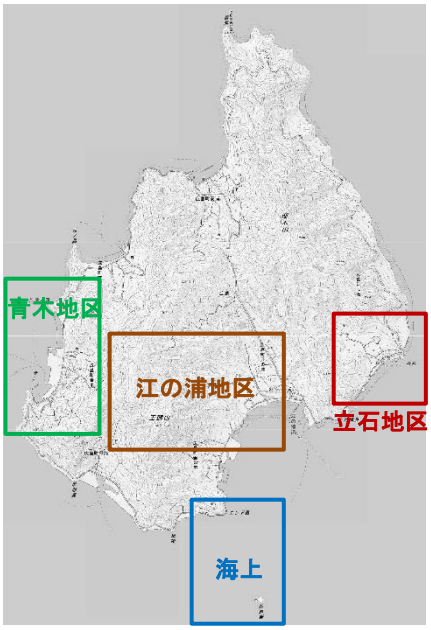
構成文化財はテーマごとに色を分けて表記
石切りの歴史・・・緑
石の産地を支えた海運・・・青
石と共に生きる　生活文化・・・赤

本島【丸亀市】





広島【丸亀市】



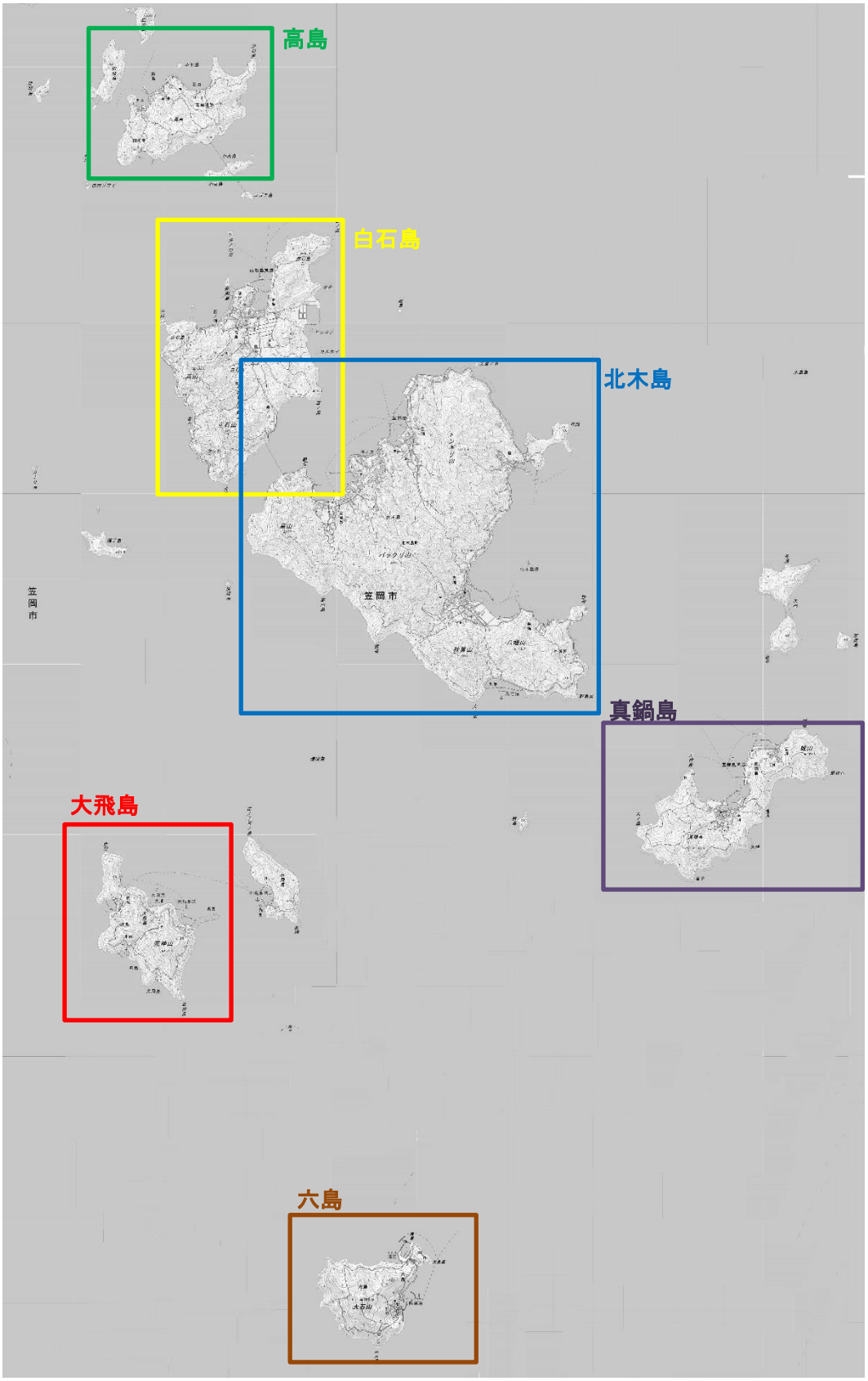
江の浦地区

青木地区

海上

立石地区

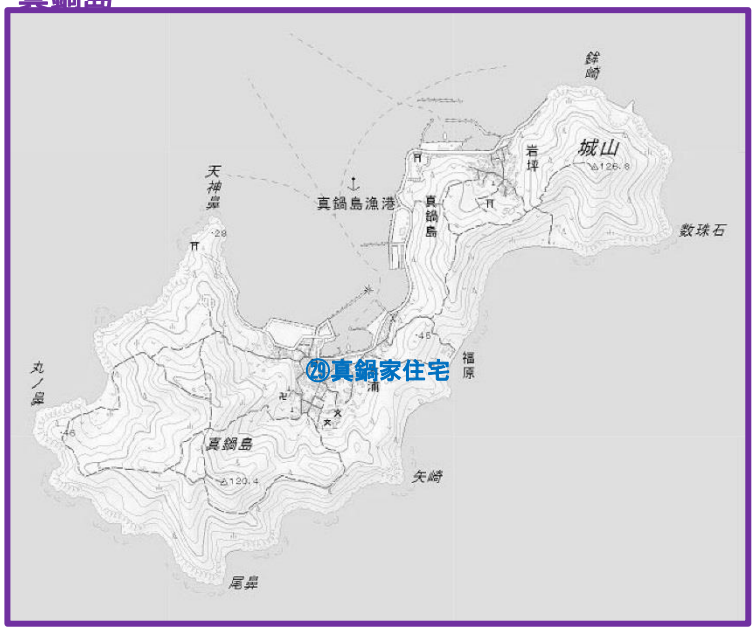
高島・白石島・北木島・真鍋島・大飛島・六島【笠岡市】※笠岡諸島



高　島

構成文化財はテーマごとに色を分けて表記
石切りの歴史・・・緑
石の産地を支えた海運・・・青
石と共に生きる　生活文化・・・赤

真鍋島



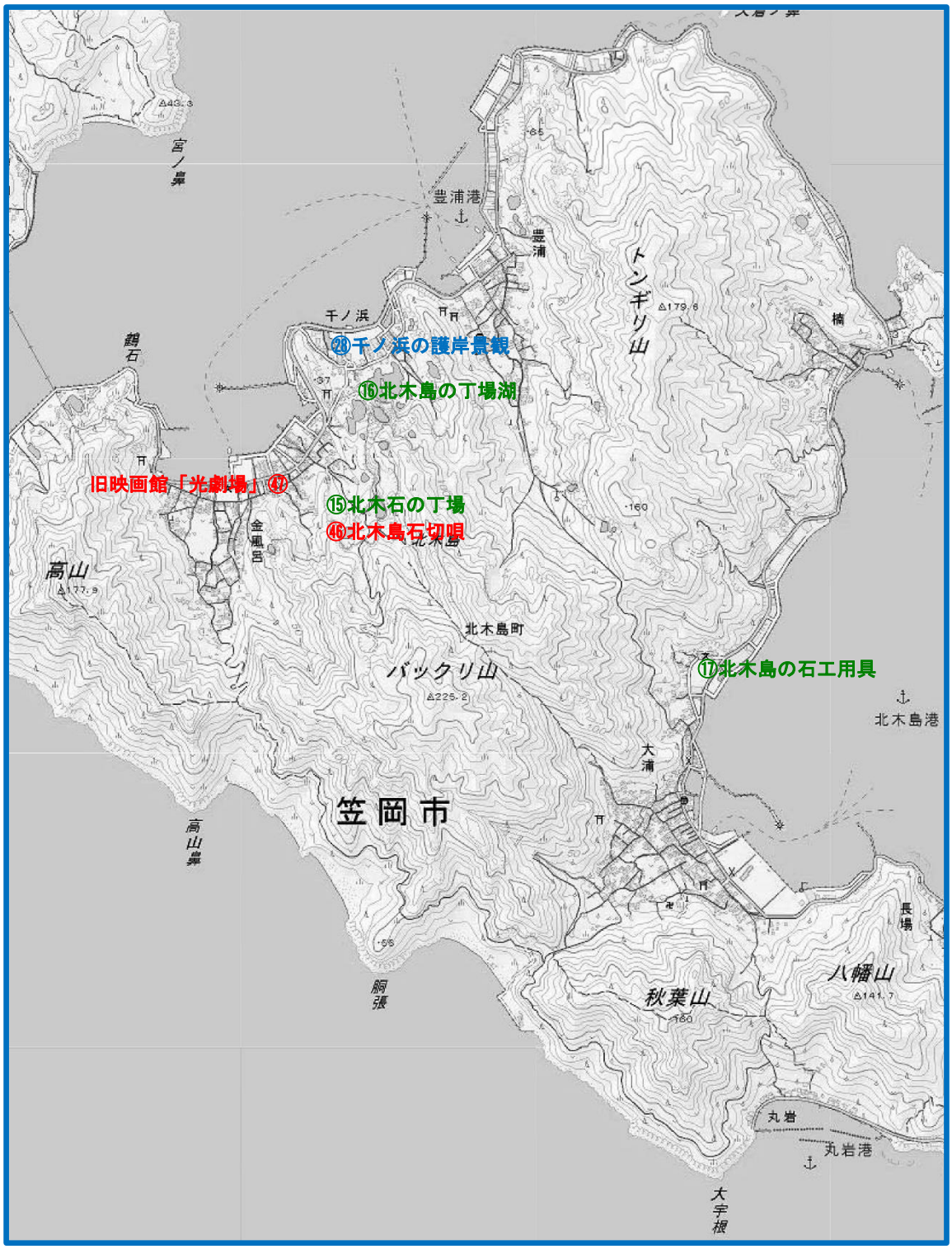
大飛島

六　島

白石島

構成文化財はテーマごとに色を分けて表記
石切りの歴史・・・緑
石の産地を支えた海運・・・青
石と共に生きる　生活文化・・・赤

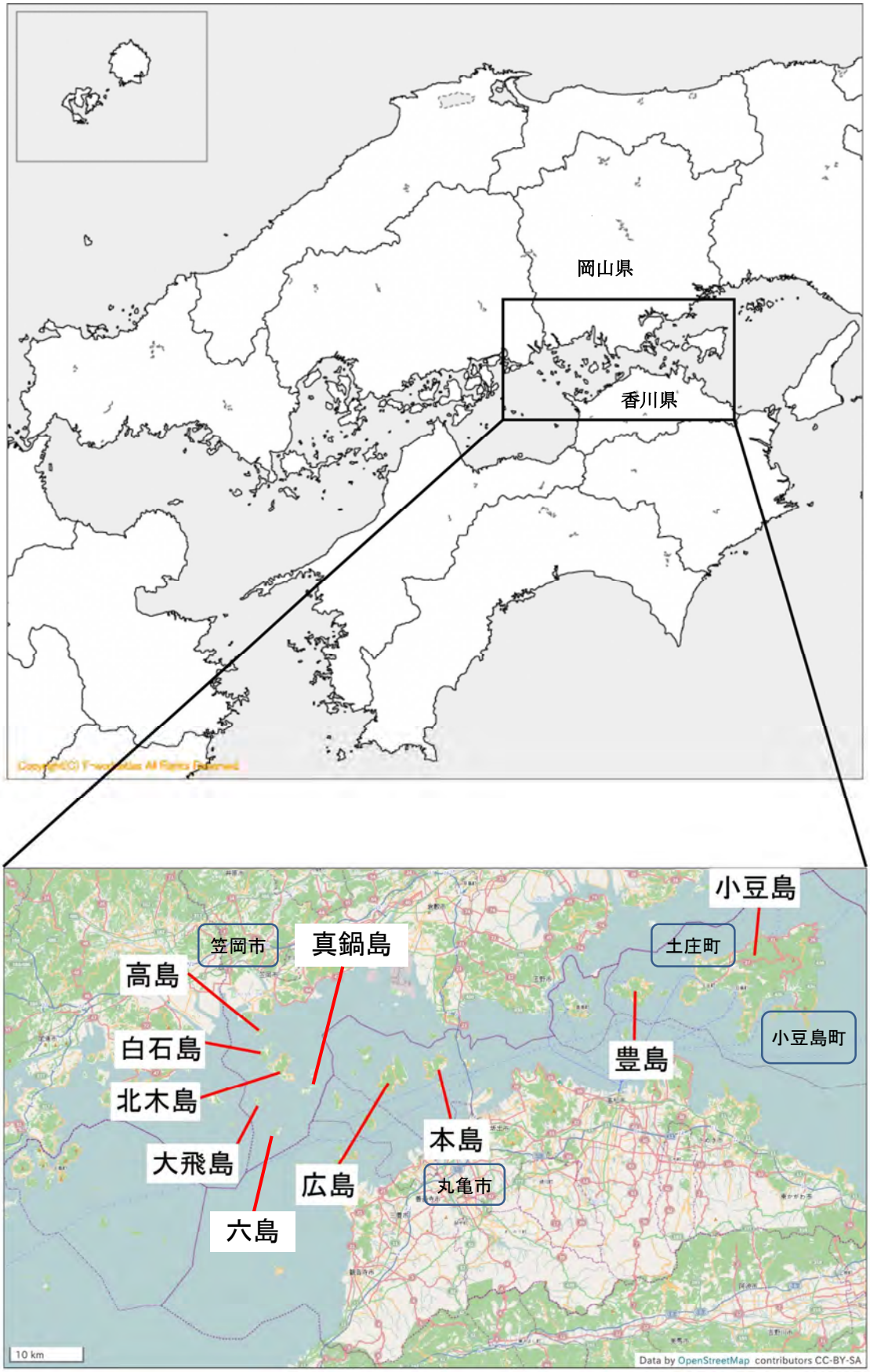
北木島



構成文化財はテーマごとに色を分けて表記
石切りの歴史・・・緑
石の産地を支えた海運・・・青
石と共に生きる　生活文化・・・赤

（様式１－２）

市町村の位置図（地図等）



ストーリー

１　日本の建築文化を支え続ける石

日本の近代化が進んだ明治後期から昭和初期にかけて，国家事業として建設された日本銀行本店本館をはじめ，明治生命館などの日本を代表する近代洋風建築が建てられたが，そこには瀬戸内海の島々，とりわけ岡山県と香川県の間に展開する備讃諸島で産まれた花崗岩が使われてきた。

一方で，我が国が世界に誇る石造建造物である，近世城郭の石垣。その技術的頂点とも言われるのが，大坂城の石垣である。大坂城は，徳川幕府が西国・北国の大名６３藩６４家を大動員して，元和６年（1620）から寛永６年（1629）の間に再建した。大名たちは競うように巨大な石を運び込み，最高・最多量といわれる壮大な石垣を築き上げた。この石垣にも，遠く離れた備讃諸島から運ばれてきた石材が大量に使われている。

これらの日本を象徴する歴史的建造物は，備讃諸島の石なくして語ることはできない。

２　石切りの歴史

原産地となった瀬戸内の備讃諸島は，小豆島，塩飽諸島，笠岡諸島などを含んでおり，その名のとおり大小無数の島々が本州と四国の間に展開して，典型的な多島海景観を見せている。

島には平地が少なく，山肌から海岸まで，至るところに花崗岩などの巨石がむき出しとなっている。このような特性を活かして，江戸時代以降，良質の石が切り出され，建造物に使われるようになっていった。

その 400 年の歴史が凝縮されているのが，丁場（ちょうば）と呼ばれる石切場である。石に鉄製の矢（や）（クサビ）を打ち込み，割りとることを「切る」という。大きな石を切るためには，石の目を読む高度な技術と，そのための道具が必要である。

小豆島に残る江戸時代の大坂城石垣の丁場跡では，直径２～３ｍ，あるいはそれ以上の大きさの割石が，山肌に沿ってあたり一面に転がっている。その様は，大名たちによるダイナミックな石切りの様子を如実に物語っており，連続して矢（クサビ）を打ち込んだ痕や，採石した者の証となる刻印から，当時の技術をうかがい知ることができる。

巨石を切り出す技術者達の来島によって，豊富な花崗岩を使いこなす文化が島に生まれた。塩飽本島では，木烏神社鳥居や島の統治者「年寄」の墓などの大形石造物が，この頃から造られるようになった。

明治以降，花崗岩の採石は地場産業として確立されていった。そんな中，笠岡諸島の北木島から切り出された「北木石」と呼ばれる花崗岩は東京をはじめ，全国各地の近代建築に使われてきた。北木石を使った重要文化財建造物は，先述の２棟に加えて，横浜正金銀行（現神奈川県立歴史博物館），大阪市中央公会堂，日本橋，東京駅丸ノ内本屋，三越日本橋本店など，枚挙にいとまが無い。

1950 年代の機械化によって，あたかも「山を切る」ような採石が可能となってからも，石工たちは良質の石を追い求め，下へ下へと深く切り進んでいった。その結果，まるで天空にそびえ立つ断崖絶壁のような丁場が誕生した。明治２５年（1892）に始まり現在でも石を切り続ける丁場は，ついに高さ100ｍの峡谷となって，そこに立つ者の足をすくませる。

これら備讃諸島の島々を巡ることによって，400 年にわたる採石技術の変遷を見聞きし，体感することができる。

大坂城石垣石丁場跡（1620 年代）

明治生命館ほか石丁場

（1892 年～現在）

巨石の積み出し（1930 年頃）

３　石の産地を支えた海運

一見，海によって本土から隔離した島々で，これほどまでに採石が発展したのはなぜか。

それは，海があったからである。島々は海によってつながっていた。海こそが，巨大な石を遠隔地まで運ぶために不可欠な「道」だったのである。

西日本における海上交通の大動脈でもあった瀬戸内海の島々には，海の「道」港町が形成された。切った巨石を積み出すための産業港は，自然の地形を利用した入り江を物流の拠点にした。小さな積み出し港には大小の端材を巧みに組み上げた護岸が遺っている。物流施設として，花崗岩を積み上げた石壁の倉庫が，原産地ならではの佇まいを見せ，醤油蔵の前には，醤油しぼりに欠かせない地元石材の重石がずらりと並べられている。

江戸時代，巨石の運搬に塩飽（しわく）の民が携わったことが知られているが，100トンを超える石を運んだその海運力と優れた操船技術は中世の塩飽水軍にさかのぼる。塩飽諸島は，中世には塩飽水軍，江戸時代には塩飽廻船の根拠地でもあり，幕末，咸臨丸の乗組員を多数輩出する船乗りたちの聖地であった。

備讃瀬戸の島々では，街路が屈曲し，十字路を形成しない複雑な町割りを残した集落が見られるが，塩飽の中枢となる本島の笠島地区では，山城のある丘陵に三方を囲まれつつ，狭い道路が複雑に食い違い，見通しがきかない防衛的な構造を示す一方，マッチョ通り（町通り）と呼ばれる主要道路に沿って町屋形式の家屋が建ち並ぶ伝統的な集落が，海の民の経済力を物語っている。

笠岡諸島の真鍋島では，塩飽水軍と並び立つ中世真鍋水軍の拠点にふさわしく，山城のふもとに防衛的な町割りの集落が展開する。また小豆島の土庄集落は「迷路のまち」と呼ばれるだけあって，地図がなければ方角を見失ってしまいそうになる。備讃瀬戸の島は，はげ山，岩場，砂浜など変化に富み，花崗岩の地質が露出し景観を形成している。島の中で山と海が一体となりコンパクトにまとまっていることが，石切りと石の陸運，海運を容易ならしめたのである。

石の島ならではの積み出し港

海の民の繁栄をしのばせる笠島の町並み

「迷路のまち」と呼ばれる土庄集落

４　石と共に生きる　生活文化

備讃諸島の島民は太古の時代より，島に点在する大きな石と共に生きてきた。富と豊かさをもたらす山の巨石は島民の精神文化と結びつき，崇拝と祈りの対象となってきた。また，岩肌をくり抜いた山岳霊場などには，おかげにあやかろうとその地を訪れる人が後をたたない。

最盛期，島は石切りから加工，商い，出荷，海運まで石材産業が島内で完結した産業都市として賑わった。特筆すべきは，石の営みを支える石工たちの生活文化であろう。島の石材産業は富を生み，営みは文化と娯楽を島に遺した。民家の中につくられた学校の小講堂のような映画館が，昭和期，石工の娯楽のために映画を上映した昔日の賑わいを物語る。

石工たちの労働歌である石切唄（いしきりうた），それを踊りとして継承する石節（せきぶし），ハレの日に石工にふるまったという伝統の石切り寿司など，産業を支え力強く生きた石工たちの希有な伝統文化が今も日々の暮らしに息づいている。

さあ，「船」という入口を通って，「島」という非日常の世界へ出かけて行こう。瀬戸内式気候特有の青空と，ゆったりと過ごす時間，海を感じながら石の文化に触れる旅が，あなたを待っている。

巨石信仰　重岩

復活した映画館　光劇場

伝統食　石切り寿司

（様式３－１）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
石切りの歴史				
①	大坂城石垣石丁場跡【天狗岩丁場・天狗岩磯丁場・南谷丁場・豆腐石丁場・亀崎丁場・八人石丁場】	国史跡	海上輸送に便利な瀬戸内の島々に採石地を求めて各大名が競って丁場を拓いたが，現在でも当時の様子を色濃く残すのが黒田家が開いた岩谷地区の丁場である。総数 1600 個を超える石が残されており，当時の石工の技術を目の当たりにできる貴重な場所である。天狗岩磯丁場の海中にあるかもめ石は船の係留施設と考えられており，山から海岸へ石を出し，船で大坂まで運んだことがイメージできる場所である。	香川県小豆島町
②	大坂城用残石番屋七兵衛屋敷跡	県史跡	小豆島では石丁場が各地に開かれたが，特に岩谷の丁場跡には現在でも大量に手つかずの石材が残されている。黒田家が江戸時代に石の管理者（番屋）をこの地に置き，石の数や状態を把握していたことを示す場所である。現在でも多くの石材が残されているのは，番屋の存在が大きかったといわれている。	香川県小豆島町
③	大坂城築城残石（福田）	町史跡	小豆島福田地区には，築城の名手として知られる藤堂高虎の御用丁場として，東谷丁場・西谷丁場・外明神丁場・鯛網代丁場の4丁場があることが小豆島九か村高反別明細帳に記されている。	香川県小豆島町
④	森ヶ滝丁場跡	未指定（文化的景観）	明治以降の福田地区の石材業を支えていた採石場跡。現在では，岩を切り進めたなごりとして，岩肌のノミの跡や，雨水のたまった丁場湖などから当時の盛隆をうかがい知ることができる。	香川県小豆島町

⑤	山の神祭り	未指定 （無形民俗）	大坂城築城時の藤堂高虎の丁場とされる西谷丁場の近くにある大山祇神社では，毎年１月９日に“技術の習得”と“安全”を祈願する「山の神祭り」が地元住民の手で行われ続けている。石工と石船により隆盛を極めたこの地区を特徴づける行事の一つである。	香川県 小豆島町
⑥	大坂城築城残石（石場）	町史跡	田中筑後守支配の砕石場であり，積出港としてもにぎわっていた場所である。この地に残された石には「田のちくこの」の代表刻印があり，大坂城石垣にも「田筑後」「小豆島」の刻印が確認されている。	香川県 小豆島町
⑦	大坂城石垣石切とび越丁場跡および小海残石群（大坂城残石記念公園）	県史跡	史跡「大坂城石垣石切とび越丁場跡および小海残石群」と小海に点在する大坂城石垣石丁場の史跡とともに徳川時代の大坂城の石垣に関する資料，この地の石工が使用してきた道具などが展示されており，石工の技術を垣間見られる空間を提供している。	香川県 土庄町
⑧	大坂城石垣石切北山・とびがらす・宮ノ上丁場跡	町史跡	大坂城残石記念公園が立地する近辺に細川家が采配した丁場跡が残されている。丁場跡には平石，そげ石など大小の残石が散在している。小豆島に残されている古文書からも，細川家と丁場跡との関係を知ることができる。	香川県 土庄町
⑨	大坂城石垣石切千軒丁場跡・小瀬原丁場跡	県史跡	この二つの丁場は肥後熊本城加藤肥後守の丁場であり，土庄村庄屋笠井家に加藤家の人々が宿泊して監督したといわれている。蛇の目紋の刻印が確認でき，加藤家が担当した大坂城の石垣石にも同様の刻印が確認できる。加藤家から贈られた佩刀（県指定）・珠数・古墨も現在まで伝えられている。	香川県 土庄町
⑩	八幡神社石鳥居	県有形 （建造物）	豊島で採掘された豊島石（角礫凝灰岩）で建造された室町時代の大鳥居があり，豊島の職人の技が見ることができる。	香川県 土庄町
⑪	塩飽本島高無坊山石切丁場跡	市史跡	大坂城築城時に細川家の丁場として稼働していた場所である。細川家文書より三期にわたる普請のうち，二期と三期にこの場所の石材を搬出したことがわかっている。塩飽水軍のお膝元であるこの地から石材が出されたことは，地域資料からもうかがえる。	香川県 丸亀市

⑫	年寄の墓	国史跡	塩飽水軍を統治した塩飽衆の代表者である年寄の墓。大坂城築城と同時期の寛永３年(1626)に建立が始まった。高さ３ｍを超える花崗岩の碑が代々建立されており，年寄の権力の強さを彷彿させる。	香川県 丸亀市
⑬	木烏神社鳥居	市有形 (建造物)	本島の泊地区にある大国主神･天押立神・少彦名神を祀る木烏神社の鳥居。大坂城築城と同時期，寛永４年(1627)の建立で，大坂城築城に関わった伝説のある薩摩の石工紀加兵衛や地元の九郎兵衛らによって製作された。どっしりとした太い石組みが，塩飽の反映をうかがわせる。様式は明神鳥居で，笠木は両端を蕨手状に丸く盛り上げた特徴のある造りである。	香川県 丸亀市
⑭	石の里資料館 収蔵資料	未指定 (有形民俗)	旧広島西小学校の一部を利用して，広島産出の花崗岩「青木石」の歴史や石切の道具，生活道具などを展示している。塩飽諸島の一つとして，石材搬出を行い続けた石の島の姿を知ることができる。	香川県 丸亀市
⑮	北木石の丁場	未指定 (文化的景観)	北木島の小金風呂にある花崗岩「北木石」の採石場は，明治２５年（1892）に開かれ，現在も採石が続いている。ここから切り出された石は，明治生命館，東京駅丸ノ内本屋などの重要文化財に使われている。良質の石を求めて地下深くへと掘り進んだ結果，天に向かってそそり立つ岩壁が誕生した。展望台から，その壮大な景色を堪能できる。	岡山県 笠岡市
⑯	北木島の丁場湖	未指定 (文化的景観)	千ノ浜地区でかつて採石していた丁場が操業停止し，そこに雨水が溜まって湖のような景観となった。採石の歴史を物語る産業遺産であると同時に，山水画のような景色を見せる。採石道具を手入れする「ふいご小屋」も遺り，近代期の石材産業のあり方を彷彿とさせる。	岡山県 笠岡市
⑰	北木島の石工用具	国登録 有形民俗	北木島では手作業で採石を行っていた明治時代から，戦後の機械化された時代に至るまでの採石・加工・鍛冶・運搬等に使われた石工道具１９９点が収集されている。北木中学校の北木石記念室に展示されている。	岡山県 笠岡市

石の産地を支えた海運				
⑱	醤油蔵と石道具の街並み （醤の郷）	国登録有形 （建造物）	石材運搬は上方から醤油文化を小豆島にもたらし，石は醤油産業に欠かせない道具として使われてきた。醤油工場や蔵が建ち並ぶ「醤の郷（ひしおのさと」では，戦後まで重石として使われていた石が並べられ，町の景観に溶け込んでいる。	香川県 小豆島町
⑲	大部ろくろ場跡	町史跡	大坂城石垣用の石材を船積みするために自然の海岸を利用してつくられたろくろ場跡である。中川内膳正久盛が采配した丁場としても知られており，切り出した石材をろくろ場から船へ積み出したものと思われる。	香川県 土庄町
⑳	土庄本町地区の 町並み （迷路のまち）	未指定 （文化的景観）	土庄本町地区にある路地が複雑に入り組む「迷路のまち」は，備讃諸島を代表する歴史的な集落のひとつ。境内から迷路のまちを一望できる西光寺や採石奉行加藤清正ゆかりの屋敷跡も残る。	香川県 土庄町
㉑	慶長小豆島絵図 及び正保小豆島絵図	県歴史資料	石材の運搬に欠かせない瀬戸内海航路。小豆島の港とそれを結ぶ各地が示されている。塩飽水軍をはじめ海の民の航海術を応用した測量技術を用い作成された絵図である。	香川県 土庄町
㉒	塩飽勤番所	国史跡	物流の大動脈である瀬戸内海で活躍した塩飽の政治の中心地が塩飽勤番所であり，塩飽全島を統率した。信長・秀吉・家康など時の天下人からも高く信頼された塩飽衆は，「人名」と称し自治を認められた。その朱印状が今も残されている。瀬戸内海の石材運搬のカギを握った海の民の偉業と歴史を伝える貴重な場所。	香川県 丸亀市
㉓	笠島集落	国重伝建	塩飽水軍，塩飽廻船の拠点であった当時の繁栄，海の民の経済力をを象徴する港町。本島の中心港であったこの場所は花崗岩の石畳などと共に，「マッチョ通り（町通り）」と呼ばれる主要道路に沿って町屋建築が立ち並び，塩飽大工の伝統的な技術を今に伝えている。	香川県 丸亀市

㉔	千歳座（ちとせざ）	市有形 （建造物）	塩飽水軍の末裔たちは近世以降，廻船や大工の分野で高い技術力を発揮し，塩飽を離れ各地域で活躍した。本島の泊地区にある千歳座は塩飽大工により文久２年（1862）に建設された芝居小屋で，基壇には本島の花崗岩が使用されている。塩飽の繁栄や風俗を物語る貴重な建物として，今も島民らが活用している。	香川県 丸亀市
㉕	波節岩灯標（はぶしいわとうひょう）	未指定 （建造物）	広島の南約 1km の沖に浮かぶ直径 50m の岩礁（波節岩）の上に設置された灯標（灯台）である。高さ 13m の灯台は花崗岩の切石を積み上げて作られている。	香川県 丸亀市
㉖	石蔵（いしぐら） （旧波節岩灯標（きゅうはぶしいわとうひょう）脂油庫（しゆこ））	未指定 （建造物）	花崗岩の外壁を持つ石蔵である。灯標用油の貯蔵庫として活用されていた。石材の仕上げ方の違いによる壁面のコントラストが美しい。灯標と同じく明治 28 年（1895）に竣工されたもの。	香川県 丸亀市
㉗	尾上邸（おのえてい）	未指定 （建造物）	まるで城のような高い石垣をめぐらせた豪壮な建物は，江戸時代に千石船で繁栄した面影をよく残しており，“塩飽大工”と呼ばれた人たちの技術が随所に発揮されている。島で採掘される青木石を高く積み上げた石垣とおよそ200年前に建てられた総ケヤキ造りの家屋が当時をしのばせる。	香川県 丸亀市
㉘	千ノ浜（ちのはま）の護岸景観（ごがんけいかん）	未指定 （文化的景観）	千ノ浜の海岸は採石の廃土石により埋め立てられ，小さな石の積み出し港としても利用された。採石で発生した端材を利用して護岸が築かれている。矢穴の残る大小の石を巧みに組み合わせる様は，原産地ならではの光景。	岡山県 笠岡市
㉙	真鍋家住宅（まなべけじゅうたく）	国登録 （建造物）	かつて真鍋水軍の本拠地であった真鍋島の集落は，海の道を担った備讃諸島を代表する，歴史的な集落の一つ。十字路を形成せず，中世から続く防衛集落的な構造をよく残している。 真鍋家住宅は真鍋鉄屋本家の住宅として，島の集落景観を代表する建物。	岡山県 笠岡市

㉚	大石山（おおいしやま）	未指定 （名勝地）	六島の大石山には，その名のとおり至る所に花崗岩の巨石がある。大正11年（1922），山の南側中腹，瀬戸内海の東西幹線航路を一望できる場所へ灯台が建てられ，航路の近代化に貢献した。灯台は昭和59年（1984）に改築されたが，大小の船舶が行き交う瀬戸内の，海の道を象徴する景観は，今も変わらない。	岡山県 笠岡市
石と共に生きる　生活文化				
㉛	神懸山（かんかけやま）（寒霞渓（かんかけい））	国名勝	備讃瀬戸の巨石・奇岩を象徴する場所。表12景，裏8景と渓谷のいたるところで長年の風化により形作られた奇岩を見ることができる。神懸山を含む山地一帯が霊地として古来信仰されている。	香川県 小豆島町
㉜	池田（いけだ）の桟敷（さじき）	国重要 有形民俗	瀬戸の海に面して，自然の地形を巧みに利用し，石を野面積（のづらづみ）にした桟敷の傑作である。石積の技術の最高傑作ともいえる。現在も祭礼の見物席として活用されている。	香川県 小豆島町
㉝	小豆島（しょうどしま）の山岳霊場（さんがくれいじょう）	未指定 （建造物）	空海が開いたとされる小豆島八十八ヶ所には，険しい石崖の洞窟に本尊を祀る山岳霊場が多く見られ，石と信仰の結びつきを物語る。西ノ滝はその典型で，小豆島最古の寺と言われ，境内から瀬戸内海を一望できる。	香川県 小豆島町・ 土庄町
㉞	小豆島農村歌舞伎（しょうどしまのうそんかぶき） 及（およ）び舞台（ぶたい），石（いし）の桟敷席（さじきせき）	国重要有形民俗 ／県無形民俗	小豆島の中山間地域である中山地区と肥土山地区には，石積みで作られた桟敷席，舞台とともに，農村歌舞伎が受け継がれている。その周辺には石積の技術を駆使し，土地の少ない島に田畑を作りあげた棚田「千枚田」がある。石と共に歩む島の人々の知恵と技術が美しい棚田の景色を作り上げ，豊作を祈願し農村歌舞伎を奉納し続けている。	香川県 小豆島町・ 土庄町
㉟	重岩（かさねいわ）	未指定 （地質鉱物）	小瀬石鑓神社のご神体として祀られていた巨石であり，小瀬原丁場跡の急峻な山道を登りきった山頂に重なり合って鎮座している。神が宿る石として，人々の石への信仰心がうかがえる。	香川県 土庄町

㊱	石切り寿司（いしきずし）	未指定 （無形）	日々過酷な重労働をしていた石工たちにふるまわれた食事として「石切り寿司」がある。石工の祭りである鞴祭りや山の神祭り，聖徳太子講などでふるまわれていたかもしれない。小豆島の北部では祭りなどのハレ食として現在でも伝えられている。	香川県 土庄町
㊲	富丘八幡神社の桟敷（とみおかはちまんじんじゃ　さじき）	町有形民俗	山林の傾斜地を利用して石垣を築いた後，区画（桟敷）を造り，各種の催しを観覧できるようにしたもの。桟敷は江戸時代後期から次第に増加し，現在でも364面ほどが大祭などで使用されている。	香川県 土庄町
㊳	石節（せきぶし）	未指定 （無形民俗）	小豆島に伝わる，石工たちによってうたわれた唄である。手作業で石を切っていた石工たちの当時の様子を感じられる。	香川県 小豆島町・ 土庄町
㊴	しし垣（がき）	町有形民俗／ 町史跡／ 未指定	小豆島内を張り巡らせるように築かれたしし垣は全長120㎞にも及ぶ。イノシシやシカなど鳥獣から田畑を守るために作られたしし垣については，築造から維持管理を村人全員で行うことを申し合わせた記録もあり，当時の人々にとっていかに石を積むことが身近なものだったかを表している。	香川県 小豆島町・ 土庄町
㊵	唐櫃岡の清水共同用水場（からとおかしみずきょうどうようすいじょう）	国登録有形 （建造物）	山の斜面を利用し地元産の花崗岩で作られた水場。湧水を花崗岩の石壁でいったんせき止め，最上部の貯水槽から三つの小水槽と大水槽に流す仕組み。地元の人に大切にされ，いまでも花崗岩が湧水を守っている。	香川県 土庄町
㊶	王頭山（王頭砂漠）（おうとうざん　おうとうさばく）	未指定 （名勝地）	広島の半分を占める王頭山。山頂近くには，「王頭砂漠」と呼ばれる空中庭園のような場所もある。花崗岩が風化してできた真砂土が砂漠のように広がり，コロコロと花崗岩の自然石が点在している。その昔，立派な寺社が建っていたという坊主屋敷の伝説が残っている。	香川県 丸亀市
㊷	心経山（しんぎょうざん）	未指定 （名勝地）	瀬戸内の眺望が良く，巨岩や怪石が露呈する弘法大師ゆかりの霊場。山頂の巨石には神仏が祀られる。心経山の丁場から切り出される花崗岩は「青木石」として知られている。	香川県 丸亀市

㊸	高島（たかしま）	国名勝	高島は古事記・日本書紀にいう神武天皇の「高島宮」であったとする伝説が古くから伝わる。大正８年（1919），伝説を顕彰するため島の最高峰「神卜山（かみうらやま）」の山頂に，巨石を用いた高さ８ｍの「神武天皇行宮遺址碑（じんむてんのうあんぐういしひ）」が建立された。	岡山県 笠岡市
㊹	開龍寺（かいりゅうじ）	未指定 （建造物）	白石島の古刹。弘法大師伝説の残る大師堂は，巨石の下に建てられており，荘厳な雰囲気をかもし出す。巨石と信仰の融合を物語る建造物。	岡山県 笠岡市
㊺	白石島（しらいしじま）	国名勝	白石島の山々には，「白石」の名のとおり巨石・奇岩が露出している。「びくに岩」など，信仰の対象となり神が祭られた巨石も見られる。山頂の遊歩道を巡ると，様々な巨石・奇岩と瀬戸内海の眺望を堪能できる。	岡山県 笠岡市
㊻	北木島石切唄（きたぎしまいしきりうた）	未指定 （無形民俗）	北木島で受け継がれる作業歌。まだ手作業で石を切っていた時代，石工たちが山から石を切り出し，割るときに唄っていた。伝統文化として保存会が継承している。	岡山県 笠岡市
㊼	旧映画館（きゅうえいがかん）「光劇場（ひかりげきじょう）」	未指定 （建造物）	北木島が石材業の発展により活気にあふれていた頃の映画館。昭和２０年代終わりから４２年頃まで営業しており，石工たちに娯楽を提供した。当時の設備や映写機をそのまま残している。現在では北木島の石文化に関する映像上映等で活用されている。	岡山県 笠岡市
㊽	大飛島遺跡（おおびしまいせき）	市史跡	大飛島の砂洲の付け根にある巨石群は，奈良・平安時代に信仰の対象となり，都びとたちによって数々の宝物が捧げられた。遣唐使などの航海の無事を祈った祭祀跡といわれる。古代の巨石信仰を物語る遺跡。	岡山県 笠岡市

構成文化財の写真一覧

①大坂城石垣石丁場跡
【天狗岩丁場・天狗岩磯丁場・南谷丁場・
豆腐石丁場・亀崎丁場・八人石丁場】

②大坂城用残石番屋七兵衛屋敷跡（おおさかじょうようざんせきばんやしちべえやしきあと）

③大坂城築城残石（福田）

④森ヶ滝丁場跡

⑤山の神祭り

⑥大坂城築城残石（石場）

⑧大坂城石垣石切北山・とびがらす・宮ノ上丁場跡

⑦大坂城石垣石切とび越丁場跡および小海残石群（大坂城残石記念公園）

⑨大坂城石垣石切千軒（せんげちょう） 丁（ぢょう） 場跡（ばあと）・小瀬原（こせばら） 丁（ぢょう） 場跡（ばあと）

⑩八幡神社石鳥居

⑪塩飽本島高無坊山石切（しわくほんじまたかんぼうやまいしきり） 丁（ぢょう） 場跡（ばあと）

⑫年寄（としより）の墓

⑬木鳥（こがらす）神社鳥居

⑭石の里資料館収蔵資料

⑮北木石の丁場（ちょうば）

⑯北木島の丁場湖（ちょうばこ）

⑰北木島の石工用具

⑱醤油蔵と石道具の町並み（醤（ひしお）の郷）

⑲大部（おおべ）ろくろ場跡（ばあと）

⑳土庄本町地区の町並み（迷路のまち）

㉑慶長小豆島絵図及び正保小豆島絵図

㉒塩飽勤番所（しわくきんばんしょ）

㉓笠島（かさしま）集落

㉔千歳座（ちとせざ）

㉕波節岩灯標

㉖石蔵（旧波節岩灯標脂油庫）

㉗尾上邸

㉘千ノ浜の護岸景観

㉙真鍋家住宅

㉚大石山

㉛神懸山（寒霞渓）

㉝小豆島の山岳霊場

㉜池田の<ruby>桟敷<rt>さじき</rt></ruby>

㉞小豆島農村歌舞伎及び舞台，石の桟敷席

㉟<ruby>重岩<rt>かさねいわ</rt></ruby>

㊱<ruby>石切<rt>いしき</rt></ruby>り寿司

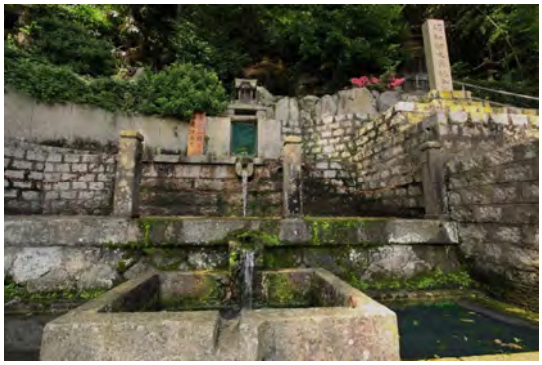
㊲<ruby>富丘八幡神社<rt>とみおかはちまんじんじゃ</rt></ruby>の<ruby>桟敷<rt>さじき</rt></ruby>

㊳<ruby>石節<rt>せきぶし</rt></ruby>

㊴しし垣

㊷心経山（しんぎょうざん）

㊵唐櫃岡（からとおか）の清水（しみず）共同用水場



㊸高島（名勝）

㊶王頭山（おうとうざん）（王頭（おうとう）砂漠）

㊹開龍寺

㊺白石島（名勝）

㊽大飛島遺跡

㊻北木島石切唄

㊼旧映画館「光劇場」

（様式４）

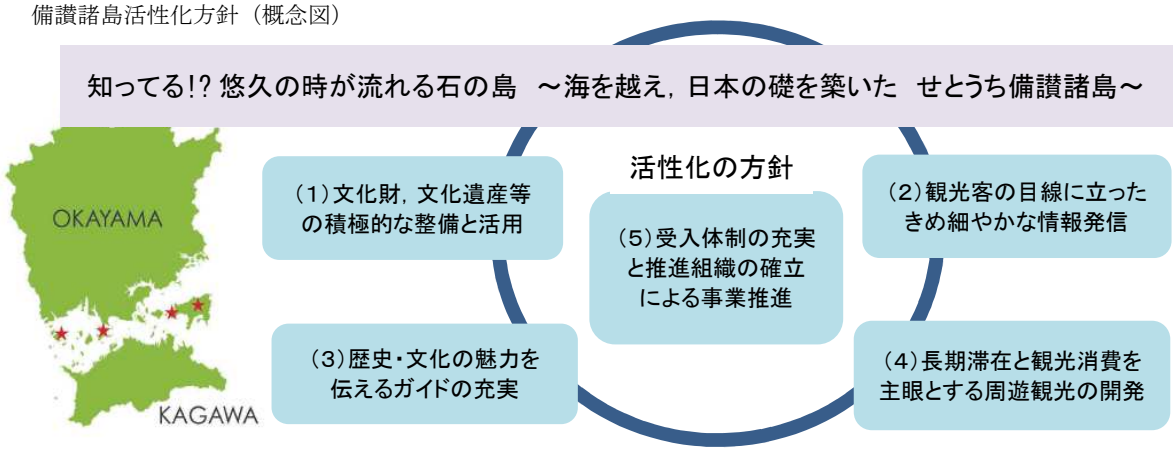
日本遺産を通じた地域活性化計画

（１）将来像（ビジョン）

岡山県と香川県を結ぶ瀬戸内海のキャンバスに，大自然が生み出す花崗岩の島々が庭石のように連なる“備讃諸島”。
石工たち（夢追人）が巨岩を切ることで形成される石丁場（いしちょうば）と石工たちが奏でる石のハーモニー（調和音）とが織りなす伝統・文化景観，そこに，大坂城の石垣をも築き上げた巨岩が露出する生命力あふれる歴史・自然景観が融合することにより，幻想的な「石の世界」を広げる。
その世界は，人々に癒やしや勇気を与え，時空を超えた「非日常的な神秘の庭園」を演出し，光という一艘の箱船が，散りばめられた島を「二つとない博物館～宝石箱～」へと誘う。
この備讃諸島が誇る宝石箱，石文化という宝石にさらなる輝きを宿すとともに，戦略的・効果的な情報発信を行うことにより，トレジャーハンターが日常的に交流する地域づくりを目指す。
また，受け継がれてきた石切りの知識や技術に磨きをかけ，守られてきた石の歴史や文化を積極的に活用することで，島に住む人々が自信と誇りを呼び返し，誰もがいきいきと暮らす地域社会をつくることによって，人口減少時代を克服する模範的な地方創生のあり方を実現する。
さらに，日本遺産を通じた地域活性化のビジョンや計画を総合計画・実施計画や地方創生の柱である「総合戦略」等に盛り込み，構成市町の地域振興の中核の一つに位置付けるとともに，「島と石でつながる地方のモデル」を構築する。

（２）地域活性化のための取組の概要

備讃諸島活性化方針（概念図）



石の文化という共通の地域資源を有する備讃諸島において，
・「海でつながる石の島」ならではの海上周遊
・日本を代表する建造物を支えた瀬戸内の島々の石の景観，歴史，産業，生活文化の体験
を実現し，観光・交流を通じた地域の活性化を図る。

現在，連携強化と観光活性化を図るため，当該エリアにおいて観光ガイドの交流・研修やモニターツアーの実施，ＰＲ活動などを推進しているが，さらに日本遺産のストーリーを活かしてビジョンを実現するため，次の５つの柱で取組を推進する。

（１）文化財，文化遺産等の積極的な整備と活用

①展示・公開施設等整備事業
備讃諸島で育まれてきた石の文化，産業，人びとの暮らし。石切唄を口ずさみながら山から石を切り出し海まで運び，船に石を積み込む人びとの姿を紹介するなど，歴史と魅力を丁寧に解説し，体験できるストーンミュージアムを整備・拡張する。具体的には，北木島の「Ｋ’ｓ　ＬＡＢＯ」，小豆島のみなとオアシス「大坂城残石記念公園」，さぬき広島の「石の里資料館」の充実を図る。

②備讃諸島の石文化フェスティバル等の開催
瀬戸内国際芸術祭等とも連携しながら，石彫の公開制作をはじめとする石にまつわるアート展や，フォトコンテスト，石器を利用し島の食材を活かした食の提供，石切唄や石節踊りなどの伝統文化の公開，石の宝探しやサイコロゲームの実施など，石の魅力をつめこんだフェスティバルや石文化の体験等を開催する。

③石の絵手紙ロードの構築
島の特産である花崗岩に物語性のある絵手紙を貼り合わせ，主要幹線道路に設置することで，石の絵手紙ロードをつくり，石の島をＰＲしていく。

④「石丁場プログラム」の展開
石丁場など石のある空間を新たな発想で楽しむため，大阪城や靖国神社石鳥居，日本銀行などを映し出すプロジェクションマッピングを展開する。観光客が夜も楽しめるイベントを開催する。

⑤備讃諸島の石材のブランド化
北木石，青木石，小豆島石等を“瀬戸の島石”としてブランド化し，日本の文化財やインフラを支える貴重な石材として未来に向けて継承していく。また，石にまつわる各種の商品開発の促進も支援していく。

⑥未発見の文化遺産の悉皆調査
観光資源となりうる未指定文化財の悉皆調査等を通じて，日本遺産の魅力をさらに高める取組を推進する。
島々では生活の中の身近な素材として石が存在しており，小豆島では醤油造りと石の関わりなどを住民から情報収集している。今後も聞き取り調査などを通じて，日本遺産ストーリーを強固な内容へと導く。また，海中遺構の調査を通じて，石の運搬ルートや技術についての解明を目指す。

（２）観光客の目線に立ったきめ細やかな情報発信

①日本遺産認定の周知活動

備讃諸島の魅力を国内外に発信していくため，日本遺産ストーリーを核としながら，あらゆる媒体を通じてのＰＲ活動を推進する。

具体的には，ＪＴＢや近畿日本ツーリスト等の大手旅行会社との連携を図るとともに，笠岡放送等の地元メディアを協議会メンバーに加えるなど，幅広い情報発信を推進する。また，ツーリズムＥＸＰＯジャパン等の都市部大規模イベントへも積極的に参画し，日本遺産ストーリーの周知を行い，インバウンドを含む観光客の誘致に結び付ける。

また，インバウンドの誘客を高めるため，航空，鉄道業界との連携体制を構築する。加えて，備讃諸島の周遊性を高めるため，フェリー会社等との連携体制を構築する。

また，産官学との連携を高め，各種の全国学会等を通じて，石文化の魅力を発信する。

また，ポスター，パンフレット，のぼり等の広告媒体の作成を行い，年次的に改訂や増刷を行う。

②映像を活用した情報発信

日本遺産ストーリーを紹介するため，特設サイトを製作し，公開する。また，イベント等で流すためのＰＲ映像を製作する。製作に当たり，備讃諸島の広さをイメージしやすいように，ドローンを使って撮影したり，インパクトのある情報発信を行うため，ご当地の芸能人（ＳＴＵ４８，千鳥）に出演を依頼する。

③情報発信の強化

市場調査等の情報分析を行うことにより，基本コンテンツやウェブサイトの更新等を実施するとともに，旅空間を楽しむモデルルートを構築する。

また，メディアや旅行会社を招請したモニターツアーを実施することにより，情報発信力を高めていく。

さらに，Ｗｉ－Ｆｉスポットの整備や解説板・案内板の設置など情報発信や交流の拠点となる施設整備等を推進する。

④フィルムコミッションの活用による情報発信

石丁場等の空間を映画やドラマの舞台として誘致するため，フィルムコミッションを立ち上げ，ロケ等を支援していく。また，石の文化や石工の技術を紹介するため，放送制作会社へ働きかけを行い，ドキュメンタリー番組を制作する。

（３）歴史・文化の本質的な魅力を伝えるガイドの充実

①石の島ガイドの養成

島々の歴史・文化の魅力を知り，自ら伝えることのできる「石の島ガイド制度」を構築し，各島々におけるガイドを養成するとともに，それぞれの島にガイドリーダーを設置し，「ガイドリーダー会議」を通じて，文化圏の一体感を醸成する。その手始めとして，すでに2018年12月にはガイドの島間交流と研修を開始している。

②ガイド，体験プログラム等の充実と質の維持・向上

観光客と島の文化を結びつけるために重要な役割を果たすガイドの質の向上のため，研修会の内容等についてブラッシュアップを継続する。また，新規観光ガイドボランティアの養成を行い底上げを図り，各地のガイド交流を定期的に行う。同時に石の文化を十分に楽しんでもらうための体験プログラム等も充実させ，実施ごとに見直し，参加者の満足度を高めるための質の維持向上に努める。

すでに海外の観光客にガイドを行っている全国通訳案内士や2018年から新たに制度化され認定された地域通訳案内士に参画協力を依頼し，質の高いガイドの実現を目指す。オフィシャルガイドを制度化し，ガイドや協議会が利益を得る仕組の構築を検討する。

（４）長期滞在と観光消費を主眼とする周遊観光の開発

①石を学び体験する新しい“旅”の創造

丁場や石の資料館，ミュージアム巡りはもちろんのこと，石をつかった昔遊びの体験，石工の道具づくり（鍛冶）や矢穴掘り体験，石割りや刻印石の拓本教室，写真撮影による石材の３次元記録挑戦会，ドローンを活かした丁場の空撮体験など，学びと体験を重視した新しい旅を創造する。

また，石の歴史・文化を一つの謎として物語にし，リアル謎解きゲームとして構築するなど，新しい発想を取り入れていく。

体験の後は，石屋が経営する民泊（石泊）を用意し，石工が語る歴史・文化講座等を開催するなど，ゆったりとした旅の時間を提供し，収益事業へと発展させていく。

②小さな島の強みを活かした観光

島を巡る際に有効な移動手段となる自転車を活用するため，ＩｏＴ技術（スマートフォン）を用いたシェアサイクルを導入し，いろいろな種類の自転車が手軽に利用できる環境を構築する。

奇岩・巨岩や史跡などを自分の足で巡るウォーキング，トレッキングルートを整備活用し，石の島を体感できる観光プログラムを提供する。

③備讃諸島の石の文化圏を周遊するクルージング等の商品化

瀬戸内海の景観を楽しみ，魚釣りやハイキング，ロッククライミング，民泊（石泊）などを織り交ぜたクルージングを商品化し，船でしか味わうことのできない新しい「旅空間」を創造する。

④選ばれる「旅空間」の実現

マーケティングリサーチ会社等を通じて，来訪者（ゲスト）となり得るターゲット層の確認や文化圏における理想的な滞在期間と周遊ルートの選定，年齢，性別，四季に応じた嗜好性などを調査分析し，真に選ばれる「旅空間」の実現を目指していく。

また，関西空港，岡山空港，高松空港等からの理想的なアクセスを調査研究し，インバウンドの誘客を進める。

さらに，経済産業省のリーサス（地域経済分析システム）を活用し，人やモノの動きを調査研究する。

⑤石工の技術の研鑽と伝承事業

石工職人の道具作り（鍛冶）や石割技術の研修の場を設け，技術の向上をサポートする。さらに，その技術を次世代につなげるための活動を実施する。

⑥島の食文化推進事業

島ならではの海の幸や，漁師料理，石切り寿司，石臼で挽いたコーヒーなど，イベント等を通じて食の魅力を発信する。また，石材運搬によって京阪神地方からもたらされ，島に根付いた醤油や素麺の魅力も取り込み，豊かな食文化を体験してもらう。

⑦体験・宿泊施設等整備事業
旧家等を改修し展示・体験・ワークショップ等が実施できる場を整備する。地域住民にとっても身近な存在となり活用し続けることを目指す。また，修学旅行や研修旅行等での民泊も含めた受入体制の整備も進める。さらに，構成文化財の保存・整備・公開活動も推進する。

⑧滞在型・回遊型観光プランの開発・実施
2019年度に設立する丸亀版ＤＭＯと連携し，丸亀城など市内主要観光施設から本島・広島への周遊モデルコースを開発・実施する。また，備讃瀬戸観光協会等を通して，笠岡諸島，小豆島へのコース拡大を図る。

⑨地元リゾート企業とのタイアップ商品の企画・実施
宿泊客などを対象とした「日本遺産観光オプショナルツアー」などを企画，実施する。

⑩石を使った島泊の推進
小豆島では，富裕層をターゲットとした宿泊施設の建設が始まっている。現在，島石を使ったアロマストーンセラピーの体験や，石のプレートを用いた鉄板焼き料理の提供，部屋の壁を玄武岩で構成する居室の整備など，石の島ならではの高級民宿事業を農林水産省の補助金により展開している。
一方，豊島では，石職人の大邸宅を改修し，石の庭園をも楽しむことができる高級宿泊施設が2019年春にオープンする予定である。高級民宿では長期滞在を実現し，石とともにゆったりとした島時間を提供する。

（５）受入体制の充実と推進組織の確立による事業推進
①強固な組織体制の構築
笠岡諸島，塩飽諸島，小豆島・豊島からなる“石の島々”を一つの文化圏としていくため，２市２町の関係者により「備讃諸島日本遺産認定推進協議会」を2018年10月に設立した。今後は「備讃諸島日本遺産推進協議会（仮称）」を設立し，２市２町の首長が自らリーダーとなって，取組を強力に推進していく。
また，推進協議会の取組を強力に推進するため，ＣＥＯの役割を果たすプログラムリーダーを設置するとともに，プログラムリーダーを補完する総合プロデューサーを設置する。

②受入体制の構築と地域コミュニティの再生・活性化
シンポジウムやワークショップ，学校でのふるさと学習や地域での展覧会等を通じて，備讃諸島の魅力を学び伝える機会を設け，日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化につなげるとともに，次世代の人材育成に向けた取組を展開する。

③地域プロデューサーの育成
各島の取組を推進する「石の島地域プロデューサー制度（仮称）」を構築し，各島に地域プロデューサーを配置する。
また，「プロデューサー会議（仮称）」を設け，密に連携を図ることで，面としての取組を強化していく。

④官民等との連携を通じた取組
瀬戸内シープレーン（水陸両用小型飛行機）や超豪華客船「ガンツウ」を島々に誘致し，富裕層をターゲットとした誘客を推進する。せとうちＤＭＯの協力により，すでにガンツウの旅行者は，小豆島（土庄町，小豆島町）や北木島（笠岡市），本島（丸亀市）へ立ち寄っており，石の景観や街並み等の散策を楽しんでいる。日本遺産認定後さらなる内容の充実を図ることにより，旅行者の満足度を高めることができる。2019年度から，大型客船「ダイヤモンドプリンセス」が高松に寄港することになったが，これを契機に乗船客の島々への誘致を進める。また，「小豆島クルーズ船誘致の会」との連携を図り，「飛鳥Ⅱ」や「にっぽん丸」の寄港に際し，石丁場を堪能するツアーを検討していく。

⑤推進組織体制のさらなる強化
丸亀市が2019年度を目途にＤＭＯの取得を目指している。今後，構成市町が一体となって，「備讃諸島日本遺産推進協議会（仮称）」の法人化を検討し，ＤＭＯの取得を目指していく。

⑥関係機関との連携
岡山県，香川県の観光戦略・文化産業戦略・国際化戦略との連携はもとより，レオマリゾート，ＪＲ西日本，ＪＲ四国，両備グループ，ベネッセコーポレーションなどの企業との協力体制の強化を図る。また，せとうちＤＭＯ，（仮称）丸亀ＤＭＯなどさまざまなＤＭＯ（ＤＭＣ）と連携するとともに，文化人や旅行会社，メディア等を巻き込みながら，真の日本遺産ブランドを構築していく。

（３）自立的・継続的な取組

・ふるさと納税制度を活用し，日本遺産のストーリーに関連する商品等を返礼品とすることで，事業を継続するための財源を確保していく。
・ガバメントクラウドファンディングの活用により，日本遺産関連事業における財源確保を図っていく。
・日本遺産特設サイトを開設し，情報提供する店舗等からの広告収入による財源確保を図っていく。
・日本遺産周遊のオプショナルツアーを数多く企画し，収益の一部を継続的な財源として確保していく。
・石の文化産業を活かした地域活性化に賛同する者を幅広く募り，会費収入による財源確保を図っていくとともに，事業を継続していくため，会員数の増加を図っていく。
・民間の手による高級宿を順次整備し，観光消費の増大を図ることで，税収基盤の強化を目指す。

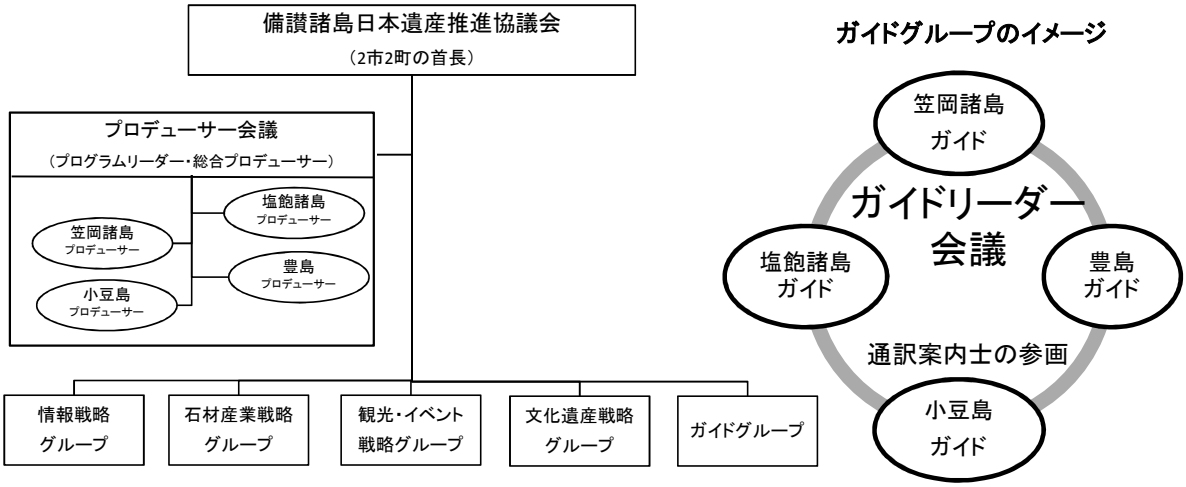
（４）実施体制

・協議会の名称：備讃諸島日本遺産推進協議会（仮称）
・構成団体：笠岡市（政策部企画政策課，産業部商工観光課，教育委員会生涯学習課），笠岡商工会議所，笠岡市観光連盟，北木石材組合，北木石材商工業組合，笠岡放送(株)。
・小豆島町（企画振興部企画財政課，商工観光課，教育委員会社会教育課），小豆島町商工会，小豆島観光協会。
・土庄町（企画課，商工観光課，教育委員会生涯学習課），土庄町商工会，小豆島とのしょう観光協会。
・丸亀市（生活環境部市民活動推進課，産業文化部文化観光課，教育委員会教育部総務課文化財保護室），（仮称）丸亀ＤＭＯ，丸亀市商工会議所，青木石材協同組合。
・アドバイザー：岡山県，香川県

【協議会を円滑に運営するための仕掛け】
・推進協議会の取組を強力に推進するため，ＣＥＯの役割を果たすプログラムリーダーを設置するとともに，プログラムリーダーを補完する総合プロデューサーを設置する。

・各島の取組を推進する「石の島地域プロデューサー制度（仮称）」を構築し，各島に地域プロデューサーを配置する。
　また，「プロデューサー会議（仮称）」を設け，密に連携を図ることで，面としての取組を強化していく。

・事業間の情報共有を図り，一体感を醸成するため，戦略のテーマごとにチーム（下記）を設置し，識見と行動力を有するチームリーダーを配置する。なお，リーダー会議の事務局は，行政の担当部局が担う。



【将来展望】
・「備讃諸島日本遺産推進協議会（仮称）」の法人化を検討し，ＤＭＯの取得を目指していく。

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

定量的評価：別紙①のとおり

期待される効果：

　日本遺産認定を契機とする，備讃諸島の戦略的，効果的な情報発信による交流人口の増大は，外貨の獲得，観光消費の増大，ひいては地域経済の潤いに寄与できる。その経済の潤いは，地域コミュニティや地場産業に新たな活力を与えるとともに，地域住民や地場事業者の生きがい，やりがいを醸成し，郷土愛を育むきっかけとなる。
　事業においても，古民家等を活用した石文化・歴史ワークショップの開催や体験型イベント，ふるさと学習を実施することにより，郷土に誇りを持てる人材を育て，そうした人材に強力なリーダーシップを発揮させる場を提供することができる。
　また，産官学の連携はもとより，地域の各種団体とも連携を図る事業を組み込むことにより，強固な組織体制が構築できるとともに，地域の一体感による更なる相乗効果により，次世代につながる地域の賑わい創出・活性化への機運を高めることができる。
　こうした地域活性化のための「場づくり」と「機運の高まり」が相まって，地域に新たな産業が芽生え，雇用創出につながる「正のスパイラル」が生まれる。
　もって，備讃諸島の地場産業や住民自治の振興・発展に資することになり，地方創生の模範となる離島振興モデルが構築できる。

（６）日本遺産魅力発信推進事業

別紙②のとおり

補助金額：	平成31年度： 47,000千円	平成32年度： 29,500千円	平成33年度： 14,000千円

（７）その他事業

別紙③のとおり

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	観光客入込み数
具体的な指標：	笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町の観光客数（１～１２月）
関連事業：	（６）②,③,④,⑤,⑥,⑦,⑧,⑨,⑩,⑪,⑫,⑬,⑭,⑮,⑯,⑰ （７）①,②,③,④,⑥,⑧,⑨,⑫,⑬,⑭,⑮,⑯,⑰,⑱,⑲,㉑,㉒,㉓,㉔,㉕,㉖,㉗,㉘,㉙ ㉚,㉛,㉜,㉝,㉞,㉟,㊱,㊲,㊳,㊴,㊵,㊶,㊸,㊹,㊺
目標値：	平成　30　年度　538　万人　⇒　平成　36　年度　613　万人
設定根拠：	各市町の総合計画，総合戦略等における目標値の合算による。日本遺産認定による情報発信の強化により，来訪客が増加することは予想されるが，情報発信，体験等の取組を常に考え進化させることで，継続した来訪客の増加を見込むことができる。
設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化
計画評価指標：	経済効果
具体的な指標：	経済産業省のリーサス（地域経済分析システム）における窯業・土石製品製造業の売上高
関連事業：	（６）⑧,⑩ （７）②,③,⑨,⑫,⑬,⑰,⑲,㉑,㉒,㉚,㉝,㉞,㉟,㊺
目標値：	平成　24　年度　8,761　百万円　⇒　平成　36　年度　8,851　百万円
設定根拠：	日本遺産認定後の売上高について，毎年度1千5百万円の増を目指し，36年度に1%増を目標にする。日本遺産認定により，既存商品の売上だけでなく，新商品の開発による売上増が見込まれる。
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合
具体的な指標：	住民アンケート，住民意識調査における文化財の保護や文化・芸術の活用・振興等に関する項目の満足度
関連事業：	（６）⑰ （７）⑫,㊵,㊷,㊹
目標値：	平成　28　年度　52　%　⇒　平成　36　年度　64　%
設定根拠：	日本遺産認定を契機に毎年2%上昇を目指す。地域住民に日本遺産認定に向けた取組の啓発活動を行うことで，地域で来訪客をもてなす雰囲気づくりを進めている。認定後も継続して行い，地域住民の満足度を高めるとともに，郷土愛を醸成する。
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産のためのふるさと納税額
具体的な指標：	ふるさと納税額に占める「日本遺産推進のためのふるさと納税」の額
関連事業：	（７）⑰,⑲,㉒,㉝,㉞,㉟,㊺
目標値：	平成　30　年度　設定なし　千円　⇒　平成　36　年度　20,000　千円
設定根拠：	日本遺産認定後ふるさと納税に「日本遺産推進」の項目を設定し，ガバメントクラウドファンディングなどにより6年後に年額2千万円の寄付を目指す。2市2町の特産品を返礼品にするなど，地域で力を合わせて日本遺産事業を推進していることを全国に発信することで，地域の魅力を知ってもらう。
設定目標Ⅲ：	日本遺産に関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数
具体的な指標：	地元事業者による日本遺産関連で開発された商品・サービス数
関連事業：	（６）① （７）③,⑤,⑦,⑩,⑪,⑬,⑭,⑮,⑯,⑰,⑲,⑳,㉑,㉒,㉓,㉔,㉝,㉞,㉟,㊺
目標値：	平成　29　年度　3　件　⇒　平成　36　年度　63　件
設定根拠：	地元事業者による日本遺産関連商品・サービス等を開発し，来訪客をもてなすことで，備讃諸島の魅力を感じてもらい，再度来訪するなど，知名度，来訪者数の上昇につながる。

（６）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：	「石の島ガイド制度（仮称）」構築事業				
事業区分：	人材育成		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 3,000千円		平成33年度： 2,000千円	
事業概要：	日本遺産ストーリーや構成遺産等を紹介，案内できるガイドの養成のため，研修会を開催する。１年目には，ガイドマニュアルの作成，２年目には外国人観光客の対応等も含めたガイド研修，３年目にはワークショップや展覧会の実施を含めた研修内容を実施。				
具体的な指標：	ガイド育成講座修了者の後年度活動者数				
目標値：	平成 30 年度 0 人 ⇒ 平成 36 年度 50 人				
事業②：	日本遺産特設サイト製作公開事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	日本遺産ストーリーをＰＲするための特設サイトを製作し，公開する。５カ国語（日本語，英語，中国語（簡体字），中国語（繁体字），韓国語）対応とし，インバウンド誘客にもつなげる。				
具体的な指標：	ホームページ閲覧数（ＰＶ数）				
目標値：	平成 30 年度 0 PV ⇒ 平成 36 年度 500,000 PV				
事業③：	日本遺産ＰＲ映像製作事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業費：	平成31年度： 6,000千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	石，島，海，人々の営みなど，日本遺産の魅力を伝えるＰＲ映像（動画）を作成し配信する。製作に当たっては，海と島を連想しやすくするため，ドローンを使って撮影したり，情報発信力の高いご当地の芸能人の出演を企画する。				
具体的な指標：	ＹｏｕＴｕｂｅ再生回数				
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 10,000 件				
事業④：	日本遺産ストーリー広報媒体作成事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	日本遺産ストーリーを周知・ＰＲするためのパンフレット・ポスター・のぼり等広報媒体の作成を行う。				
具体的な指標：	補助事業終了後のパンフレット増刷数				
目標値：	平成 30 年度 0 部 ⇒ 平成 36 年度 200,000 部				
事業⑤：	日本遺産案内看板製作設置事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 1,000千円		平成33年度： 1,000千円	
事業概要：	構成遺産の案内看板を地元の花崗岩も活用しながら製作設置し，ストーリーの周知を促進するとともに，来訪者の利便性向上を図る。平成31年度から３ヵ年の間に順次設置する。				
具体的な指標：	観光客入込み数				
目標値：	平成 30 年度 538 万人 ⇒ 平成 36 年度 613 万人				

事業⑥：	日本遺産認定記念シンポジウム開催事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	日本遺産ストーリーの紹介や備讃諸島の石文化の魅力を発信し，各地域の連携・交流を図るため，シンポジウムを開催する。				
具体的な指標：	観光客入込み数				
目標値：	平成 30 年度 538 万人 ⇒ 平成 36 年度 613 万人				
事業⑦：	都市部イベントにおけるプロモーション事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 2,000千円	平成32年度： 1,000千円		平成33年度： 1,000千円	
事業概要：	日本遺産サミット，ツーリズムＥＸＰＯジャパン，しまづくりキャラバンやお城ＥＸＰＯなどのイベントにブースを出展し，日本遺産ストーリーのプロモーションを展開する。				
具体的な指標：	観光客入込み数				
目標値：	平成 30 年度 538 万人 ⇒ 平成 36 年度 613 万人				
事業⑧：	船でしか味わうことのできない「旅空間」構築のための調査研究事業				
事業区分：	調査研究		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 31 年度	
事業費：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	マーケティングリサーチ会社等を通じて，備讃諸島の石文化の船でしか味わうことのできない「旅空間」を構築するため，嗜好性の調査研究を行い，ブランド力を高める。				
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数				
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 10 件				
事業⑨：	日本遺産探訪ツアー構築に向けたモニターツアー実施事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 32 年度	
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 2,000千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	メディアや大手ツーリストビューローを招き，構成遺産を巡るモニターツアーを実施し，日本遺産探訪ツアーを構築する。				
具体的な指標：	日本遺産に関する旅行商品数				
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 10 件				
事業⑩：	備讃諸島の石文化を知るクルージング商品の開発事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 32 年度	
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 2,000千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	備讃諸島の石文化を楽しみ，それぞれの島を周遊するクルージング商品を開発するため，お試しクルージングを実施する。				
具体的な指標：	クルージングを含めた旅行商品数				
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 5 件				

事業⑪：	備讃諸島の石文化「石材アートフェス」の開催				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度	
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 10,000千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	石彫の公開制作をはじめとする石にまつわるアート展を行い，まちなかに石のアート作品のある文化・芸術の香りたかいまちづくりを進める。31年度に企画及びコンテンツ準備を行い，32年度にフェスティバルを開催する。				
具体的な指標：	市民アンケート，市民意識調査における文化財の保護や文化・芸術の活用・振興等に関する項目の満足度				
目標値：	平成 30 年度 53 % ⇒ 平成 36 年度 64 %				
事業⑫：	「備讃諸島の石文化」フォトコンテスト事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 32 年度	
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 500千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	カメラ愛好家が備讃諸島の石文化を訪ね，見て撮った「石」にまつわるフォトコンテストを開催する。石の絵手紙ロードや石彫などをはじめ，石の文化の素晴らしさを切り取ってもらうとともに，新たな魅力を創出する契機としても活用する。				
具体的な指標：	ホームページ閲覧数（ＰＶ数）				
目標値：	平成 30 年度 0 PV ⇒ 平成 36 年度 500,000 PV				
事業⑬：	石の絵手紙ロード整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 4,000千円		平成33年度： 4,000千円	
事業概要：	石の絵手紙を制作，設置し，石の絵手紙ロードを整備する。石文化を対外的にアピールする。				
具体的な指標：	観光客入込み数				
目標値：	平成 30 年度 538 万人 ⇒ 平成 36 年度 613 万人				
事業⑭：	日本遺産フィルムコミッション事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 1,000千円	
事業概要：	映画等のロケ誘致により，日本遺産の魅力を広く伝える。				
具体的な指標：	ロケ誘致件数				
目標値：	平成 30 年度 0 件 ⇒ 平成 36 年度 5 件				
事業⑮：	「備讃諸島の石文化」プロジェクションマッピング事業				
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 32 年度	
事業費：	平成31年度： 3,000千円	平成32年度： 3,000千円		平成33年度： 0千円	
事業概要：	採石跡地など石のある空間を新しい発想で楽しむことを目指すため，日本銀行本店など島石で造られた建造物を映し出すプロジェクションマッピングを実施する。31年度は映像を制作し，32年度に投影する。				
具体的な指標：	ホームページ閲覧数（ＰＶ数）				
目標値：	平成 30 年度 0 PV ⇒ 平成 36 年度 500,000 PV				

事業⑯：	備讃諸島のリアル謎解きゲーム実施事業				
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 0千円	平成32年度： 0千円		平成33年度： 3,000千円	
事業概要：	謎を解きながら地域の資源を知ることが出来る内容を構築し，参加者にはそのゲームの主人公として参加してもらう。「石の文化」について関心の低い観光客に対しても，その奥深さをゲームを通じて堪能してもらうことを狙う。				
具体的な指標：	観光客入込み数				
目標値：	平成 30 年度 538 万人 ⇒ 平成 36 年度 613 万人				
事業⑰：	旧家等を活用した展示・体験施設等整備事業				
事業区分：	公開活用のための整備		事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 33 年度	
事業費：	平成31年度： 5,000千円	平成32年度： 3,000千円		平成33年度： 2,000千円	
事業概要：	石の歴史・文化を有する旧家等を展示・体験ができる施設へと改修し，ワークショップや交流の場として活用していくほか，今後は島の食文化が味わえる宿泊施設としての整備を検討していく。				
具体的な指標：	観光客入込み数				
目標値：	平成 30 年度 538 万人 ⇒ 平成 36 年度 613 万人				

様式４（別紙③）

（７）その他事業

事業①：	フリーＷｉ-Ｆｉスポット整備事業【笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町】		
実施主体：	笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	外国人をはじめ来島した観光客が，ＳＮＳ上で写真や感想を発信してもらえるよう，Ｗｉ－Ｆｉスポットを整備する。来島後もネット情報の確認などにも有効であり，観光客の利便性を高める。		
事業②：	未発見の文化遺産の悉皆調査【笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町】		
実施主体：	笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	地域でも知られていない未把握等の文化財の悉皆調査を通じて，日本遺産の魅力を高める素材を発掘する。		
事業③：	既存周遊切符の利用可能範囲の拡大による誘客事業【笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町】		
実施主体：	ＪＲ西日本	事業期間：	平成　32　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	既存の周遊切符の利用可能範囲を拡大し，鉄道，フェリー等による備讃諸島へのアクセスをよりよくする。		
事業④：	民間企業のバックアップによる情報発信事業【笠岡市・丸亀市・土庄町・小豆島町】		
実施主体：	両備グループ	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	ツーリズムＥＸＰＯジャパンにおける最大規模である「ＷＯＮＤＥＲＦＵＬ　ＳＥＴＯＵＣＨＩブース」での情報発信		
事業⑤：	「石の島地域プロデューサー制度（仮称）」の構築		
実施主体：	日本遺産推進協議会	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	島の取組を推進するプロデューサーを配置し，２市２町の面としての取組を強化する。		
事業⑥：	日本遺産ストーリー広報媒体作成事業		
実施主体：	日本遺産推進協議会	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	日本遺産に関する情報を継続的に発信するために，広報媒体の増刷や改訂を行う。		
事業⑦：	「石の島ガイド制度（仮称）」ブラッシュアップ事業		
実施主体：	日本遺産推進協議会	事業期間：	平成　34　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	日本遺産を現地で発信するガイドの育成を継続的に進める。		
事業⑧：	都市部イベントにおけるプロモーション事業		
実施主体：	日本遺産推進協議会	事業期間：	平成　34　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	継続して大規模イベント会場にブースを設置し，日本遺産をはじめとする観光情報を発信する。		
事業⑨：	豪華客船から島への観光客誘致事業		
実施主体：	日本遺産推進協議会	事業期間：	平成　28　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	備讃諸島を巡る豪華客船から小型船に乗り換えて石文化の島々へ観光客を誘致する。		
事業⑩：	白石島待合所・桟橋整備事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市	事業期間：	平成　28　年度　～　平成　31　年度
事業概要：	白石島の玄関口である白石島漁港に桟橋を更新整備し，あわせて待合所を建設する。		
事業⑪：	地域産業魅力づくり応援事業費補助金【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市	事業期間：	平成　28　年度　～　平成　31　年度
事業概要：	観光資源や宿泊施設の整備等を行う民間事業者を支援する。		

事業⑫：	かさおかブランド推進事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市	事業期間：	平成 26 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	笠岡市が誇れる資源を認定し，地域のブランド化を推進する。		
事業⑬：	備讃諸島を周遊できる小型客船の整備【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 34 年度
事業概要：	笠岡諸島，塩飽諸島，小豆島を周遊するための小型客船を整備する。		
事業⑭：	白石島トレッキングコース整備事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	白石島鎧岩まで登頂するトレッキングコースの整備		
事業⑮：	高島の歴史ウォーキングコース整備事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	巨石と歴史の島，高島のウォーキングコースの整備事業		
事業⑯：	真鍋島のふるさと村ウォーキングコース整備事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	のどかな漁村のたたずまいが残る島，真鍋島を巡るウォーキングコースの整備事業		
事業⑰：	島の食文化推進事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	漁師の雑魚（じゃこ）料理(あまてカレイの煮つけ・ネブトの唐揚げ・ゲタの酢の物・がらエビのかき揚げ・早春の「魚島」といわれる「ばら寿司」・磯の岩に付いているツブやヨメザラの塩茹で)の提供。「ふいご祭り」での牛肉のふるまい。		
事業⑱：	石を使った子ども遊びの体験事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 33 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	昔遊びの「石こかし」「石受け」「石けりケンパー」の体験		
事業⑲：	笠岡諸島のクルージング事業【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 32 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	中型船での洋上パーティー。小型船を屋形船に仕立て宴席		
事業⑳：	真鍋島における英語による島ガイド講習【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	真鍋島島民対象で，島全体で外国人旅行者に対応するため，英語の観光ガイド講習を行う。		
事業㉑：	小・中学生の修学旅行や研修旅行等の受け入れ地としての整備【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	海の無い県の子どもたちの修学旅行や研修旅行等での民泊も含めた受入れ体制の整備		
事業㉒：	民泊施設の整備【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	古民家や旅館を利用した宿泊施設の整備		
事業㉓：	石の島ツアーでの漁業体験【笠岡市】		
実施主体：	笠岡市内の民間事業者（観光底曳・釣船）	事業期間：	平成 31 年度 ～ 平成 36 年度
事業概要：	底曳網漁船に乗り，漁業体験しながら，捕れた魚は船上で自分たちで調理し食事する。		

事業㉔：	「石のモニュメント」を巡るウォーキングの啓発事業【笠岡市・丸亀市】		
実施主体：	ウォーキング実行委員会	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	島地部だけでなく陸地部も含め石のモニュメントを巡るウォーキングコースをPRする。		
事業㉕：	国の重要伝統的建造物群保存地区「笠島集落」の保存・整備事業【丸亀市】		
実施主体：	丸亀市	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	歴史情緒が漂う美しい町並みの保存・改修や景観等の整備を順次実施する。		
事業㉖：	塩飽勤番所の公開事業【丸亀市】		
実施主体：	塩飽勤番所顕彰保存会	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	各施設や文献等の公開・展示を実施。		
事業㉗：	笠島まち並保存地区の公開事業【丸亀市】		
実施主体：	ＮＰＯ笠島まち並保存協力会	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	各施設や文献等の公開・展示を実施。		
事業㉘：	瀬戸内国際芸術祭と連動した笠島まち並保存地区の整備・公開事業【丸亀市】		
実施主体：	ＮＰＯ笠島まち並保存協力会	事業期間：	平成　30　年度 ～ 平成　31　年度
事業概要：	2019瀬戸内国際芸術祭の会場となる笠島地区において，漁港の桟橋を改修し，本島の新たな玄関口として，観光客の受入れをはじめ，石に関わる歴史や文化をＰＲする。		
事業㉙：	本島石切り丁場跡公開整備事業【丸亀市】		
実施主体：	丸亀城石の会	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	本島高無坊山石切丁場跡の案内板設置や景観整備を実施。		
事業㉚：	広島特産「青木石」を使ったワークショップ【丸亀市】		
実施主体：	青木石材協同組合	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	石の文化を有する旧家等を活用し，親子を対象としたワークショップ「石のお宝さがし」の実施や石臼で挽いたコーヒーの提供。		
事業㉛：	「いろは石」などを巡るウォーキング大会の実施及び啓発【丸亀市】		
実施主体：	ウォーキング実行委員会	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	いろは石や青木石の採石場を巡るウォーキング大会の実施やコースのＰＲを図る。		
事業㉜：	広島里山保全事業【丸亀市】		
実施主体：	三菱電気株式会社　受配電システム製作所	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	巨石が点在する広島「王頭山」参道口の整備事業		
事業㉝：	滞在型・回遊型観光プランの開発・実施【丸亀市】		
実施主体：	丸亀版ＤＭＯ	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	３１年度に設立する丸亀版ＤＭＯと連携し，丸亀城など市内主要観光施設から本島・広島への周遊モデルコースを開発・実施する。また，備讃瀬戸観光協会等を通して，笠岡諸島，小豆島へのコース拡大を図る。		
事業㉞：	地元リゾート企業とのタイアップ商品の企画・実施【丸亀市】		
実施主体：	レオマリゾート	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	宿泊客などを対象とした「日本遺産観光オプショナルツアー」などを企画，実施する		
事業㉟：	石職人の邸宅を改修した宿泊施設の整備と展開【土庄町】		
実施主体：	株式会社ウィアトール	事業期間：	平成　31　年度 ～ 平成　36　年度
事業概要：	石職人の邸宅を改修し，石とふれあえる長期滞在施設として提供		

事業㊱：	道の駅大坂城残石記念公園整備事業【土庄町】		
実施主体：	土庄町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	石の歴史を伝える資料館を含めた大坂城残石記念公園の整備		
事業㊲：	重岩遊歩道整備事業【土庄町】		
実施主体：	土庄町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	重岩に続く遊歩道の整備		
事業㊳：	迷路のまち加藤家歴史資料活用事業【土庄町】		
実施主体：	土庄町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	土庄町に残る加藤家ゆかりの貴重な資料を公開		
事業㊴：	修羅の再生と修羅曳き体験事業【土庄町】		
実施主体：	土庄町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	修羅を再現し，修羅曳き体験を行えるよう整備する。		
事業㊵：	瀬戸内国際芸術祭と連動した石工ワークショップ【土庄町・小豆島町】		
実施主体：	公益財団法人福武財団	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	地元の歴史や文化の紹介の一環で，石割道具作り（鍛冶）や石割体験，手形プレート製作体験などのワークショップを実施。		
事業㊶：	ＩＯＴ技術を用いたシェアサイクルの導入【土庄町・小豆島町】		
実施主体：	一般社団法人ハローアイランド	事業期間：	平成　29　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	手軽に自転車が利用できる環境を構築する。		
事業㊷：	石工の技術の研鑽と伝承事業【小豆島町】		
実施主体：	小豆島町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	文化財石垣保存技術協議会と協力し，石工の道具作り（鍛冶）や石割の技術の研鑽と次世代につなげるための活動を実施する。		
事業㊸：	学びと体験を重視した旅のコンテンツの充実【小豆島町】		
実施主体：	小豆島町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	石工の道具づくり（鍛冶）や矢穴掘り体験，石割や刻印石の拓本教室などコンテンツの充実を図る。		
事業㊹：	ふるさと学習における石の文化に関する体験学習【小豆島町】		
実施主体：	小豆島町	事業期間：	平成　31　年度　～　平成　36　年度
事業概要：	小・中学校のふるさと学習の一環として石割体験やクロスワードパズルを含めた体験学習を実施。		
事業㊺：	石を使った島泊の推進【小豆島町】		
実施主体：	小豆島町内の民間事業者	事業期間：	平成　29　年度　～　平成　31　年度
事業概要：	長期滞在を視野に入れた高級民宿を整備し，海，石，食を楽しむ環境を構築。		